

うばしじんじゃ みこし  
菟橋神社の神輿

種 別	小松市指定文化財 建造物
指定年月日	昭和 50 年 11 月 1 日
所 在 地	浜田町

菟橋神社は、慶安 4 年（1651）小松城中より現在地に遷座したが、神輿を初めとする各種の神具はそのときに寄進されたものと伝えられる。

神輿は豪壮華麗で、砺波や京都、金沢の工人のほか、小松在住の工人が造ったものであるといわれる。神輿の四面の扉には繊細な透彫がなされており、神輿全体は黒漆塗で金箔が施されている。また屋根の頂上には高さ 50 センチメートルの鳳凰が配される。

5 月の春季例祭（お旅まつり）で、本折日吉神社の神輿とともに小松城に<sup>とぎよ</sup>渡御したのが「お旅」という名前の由来といわれる。菟橋神社の神輿は、現在でも当時からの渡御の順路や<sup>ぐぶ</sup>供奉の様式が伝承されている。

毎年の渡御や、その中の激しい神輿振りによって痛みは避けられず、寄進以来数回の修理を繰り返している。付属品や部品の交換もあったが、概ね当初の姿を留めている。今日までの約 360 年間、毎年激しい渡御が行なわれながらなお堅牢な作であり、歴史的、美術的に優れたものである。

